

令和3年度  
スポーツに関する県民アンケート  
結果報告書

令和3年12月  
宮城県

< 目 次 >

<b>I</b>	<b>調査の概要</b> . . . . .	<b>1</b>
1	調査の目的 . . . . .	1
2	調査の実施状況 . . . . .	1
3	調査の項目 . . . . .	1
4	回答者に関するデータ . . . . .	2
<b>II</b>	<b>調査結果</b> . . . . .	<b>3</b>
(1)	健康・スポーツに関する意識 . . . . .	3
①	新型コロナウイルス感染症の影響について	
②	健康について	
③	運動・スポーツについて	
(2)	スポーツ実施率 . . . . .	5
(3)	スポーツ観戦 . . . . .	7
(4)	地域スポーツ . . . . .	8
①	総合型地域スポーツクラブについて	
②	地域のスポーツ行事について	
(5)	その他 . . . . .	9
①	スポーツボランティアについて	
②	運動・スポーツに関する情報について	
③	障がい者スポーツについて	
④	県のスポーツ振興策への希望について	
<b>III</b>	<b>調査結果（居住圏域別分析）</b> . . . . .	<b>13</b>

○ 比率は百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。  
このため、百分率の計が100%にならないことがあります。

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

本県では、平成14年11月に「宮城県スポーツ振興基本計画」、平成25年3月には「宮城県スポーツ推進計画」を策定し、スポーツの各分野における様々な施策を展開してきました。令和5年度から施行する「第2期宮城県スポーツ推進計画」の策定に向け準備を進めています。そこで、これまで計画の成果と課題を検証するため、現在の県民の健康・スポーツに関する意識やスポーツ実施率等、スポーツに関する状況を把握するため、令和3年度に5回目となるスポーツに関する県民アンケート調査を実施しました。また、県民意識の変化をみるため、平成22、27年度と同じ質問を行い、調査データの比較を行う項目も設けました。

### 2 調査の実施状況

	平成22年度	平成27年度	令和3年度
(1)調査期間	平成22年12月1日～ 平成22年12月31日	平成27年12月1日～ 平成27年12月20日	令和3年5月1日～ 令和3年5月31日
(2)調査方法	郵送方式	郵送方式	郵送方式・web回答
(3)調査対象	無作為抽出した県内在住 の成人3,000人	無作為抽出した県内在住 の成人3,000人	無作為抽出した県内在住 の満18歳以上3,000人
(4)回収結果	1,271人(回収率42.4%)	1,051人(回収率35.0%)	1,232人(回収率41.1%)

#### ※抽出方法

- ・令和2年1月1日現在の住民基本台帳年報を利用。
- ・各市町村の調査対象人数に全県に占める割合を乗じて抽出数を算出。
- ・全県に占める各市町村の男女別の人数の割合に各市町村の男女別の調査対象人数を乗じて対象者を算出（18、19歳の人数については、住民基本台帳の「15～19歳」区分から5分の2の割合で算出。全市町村から一律、男1名、女1名を配分。）

※令和3年度調査においては、webによる調査回答を導入した。（web回答206人／1,232人）

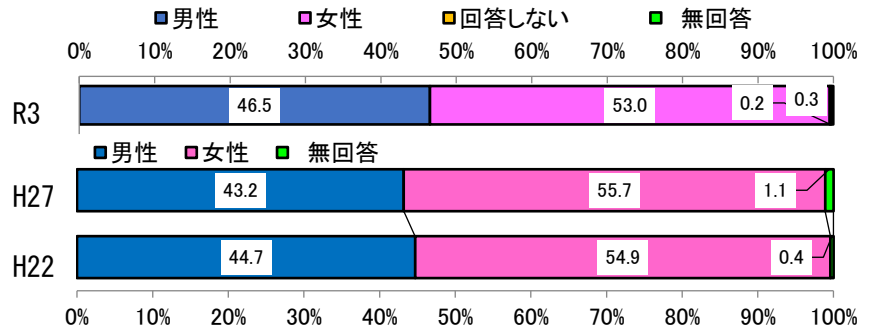
### 3 調査の項目

- (1) 健康・スポーツに関する意識
  - ① 新型コロナウイルス感染症の影響について
  - ② 健康について
  - ③ 運動・スポーツについて
- (2) スポーツ実施率
- (3) スポーツ観戦
- (4) 地域スポーツ
  - ① 総合型地域スポーツクラブについて
  - ② 地域のスポーツ行事について
- (5) その他
  - ① スポーツボランティアについて
  - ② 運動・スポーツに関する情報について
  - ③ 障がい者スポーツについて
  - ④ 県のスポーツ振興策への希望について

4 回答者に関するデータ

(1) 性別 (%)

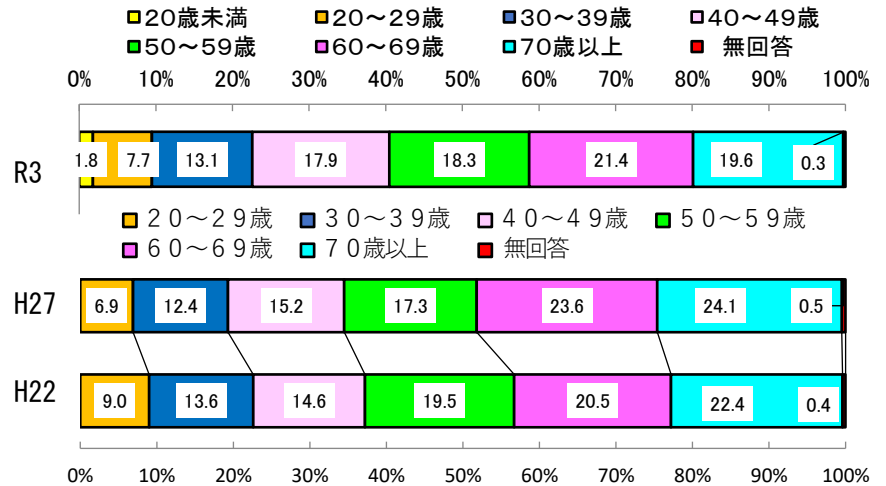
性別	H22 n=1271	H27 n=1051	R3 n=1232
男性	44.7	43.2	46.5
女性	54.9	55.7	53.0
回答しない	—	—	0.2
無回答	0.4	1.1	0.3



※注 H22・H27, R3 調査では選択肢が異なる。

(2) 年齢 (%)

年齢	H22 n=1271	H27 n=1051	R3 n=1232
20歳未満	—	—	1.8
20～29歳	9.0	6.9	7.7
30～39歳	13.6	12.4	13.1
40～49歳	14.6	15.2	17.9
50～59歳	19.5	17.3	18.3
60～69歳	20.5	23.6	21.4
70歳以上	22.4	24.1	19.6
無回答	0.4	0.5	0.3

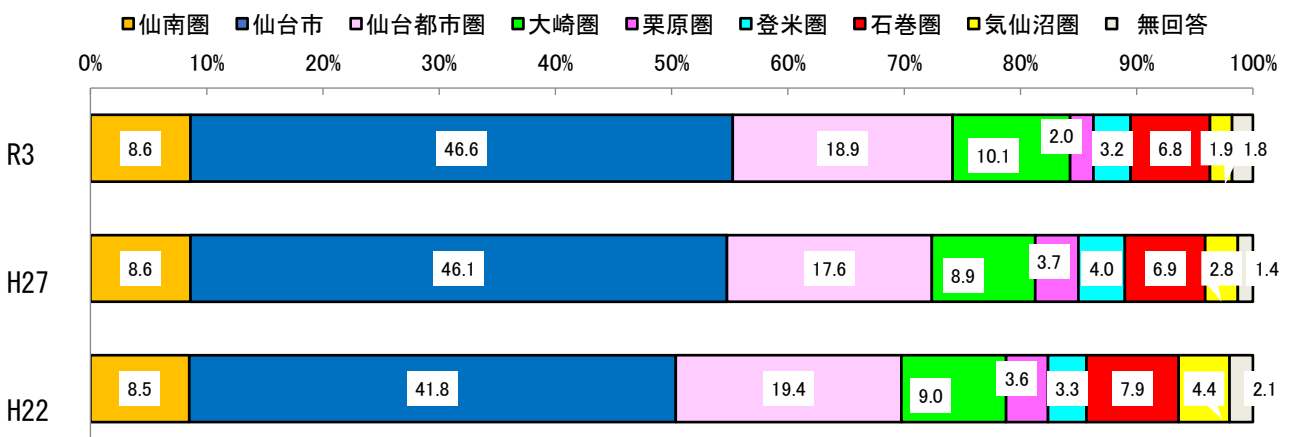


※注 H22・H27, R3 調査では選択肢が異なる。

(3) 居住圏域 (%)

居住圏域	H22 n=1271	H27 n=1051	R3 n=1232	広域圏の区分
仙南圏	8.5	8.6	8.6	白石市, 角田市, 刈田郡, 柴田郡, 伊具郡
仙台市	41.8	46.1	46.6	(青葉区, 宮城野区, 若林区, 太白区, 泉区)
仙台都市圏	19.4	17.6	18.9	塩竈市, 名取市, 多賀城市, 岩沼市, 富谷市, 亶理郡, 宮城郡, 黒川郡
大崎圏	9.0	8.9	10.1	大崎市, 加美郡, 遠田郡
栗原圏	3.6	3.7	2.0	栗原市
登米圏	3.3	4.0	3.2	登米市
石巻圏	7.9	6.9	6.8	石巻市, 東松島市, 牡鹿郡
気仙沼圏	4.4	2.8	1.9	気仙沼市, 本吉郡
無回答	2.1	1.4	1.8	

(%)



## Ⅱ 調査結果

### (1)健康・スポーツに関する意識

#### 調査結果の概要

##### 【①新型コロナウイルス感染症の影響について】

- 感染対策の徹底や外出の自粛等により、生活習慣が大きく変化したことで、個々の健康への意識が高まっている。特に、老年層ほど意識の高まりが顕著である。
- 予想に反して、スポーツを実施する環境には大きな影響はなかった。個人でできる種目を好む傾向や、日常の運動・スポーツの非実施者の増加が背景にあるものと推察する。

##### 【②健康について】

- 自分の健康状態について「健康である」「どちらかといえば健康である」の回答を合わせると82.7%であり、前回と比較すると若干下回る結果となった。
- 健康を保つために心掛けていることの上位は、前回、前々回と全く同様の結果となった。「運動やスポーツをする」は、順位の変動はないが、ポイント数の微減がみられる。

##### 【③運動・スポーツについて】

- 運動・スポーツをすることについて、「とても好き」「好き」という回答が減少しており、「あまり好きではない」「嫌い」の割合がわずかに増加している。
- 今後も続けたい、これから始めてみたい運動・スポーツについては、ウォーキングが65.0%と最も多く、コロナ禍でも対策が容易にできる個人で行うことのできる種目やアウトドアスポーツが好まれている。

#### ① 新型コロナウイルス感染症の影響について

図1 日常生活の環境の変化(複数回答)

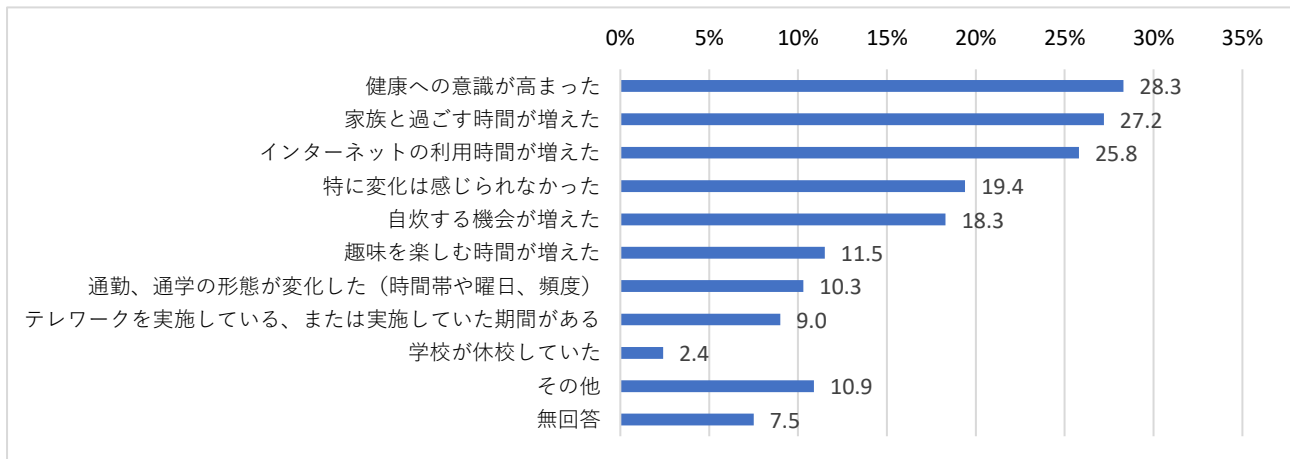
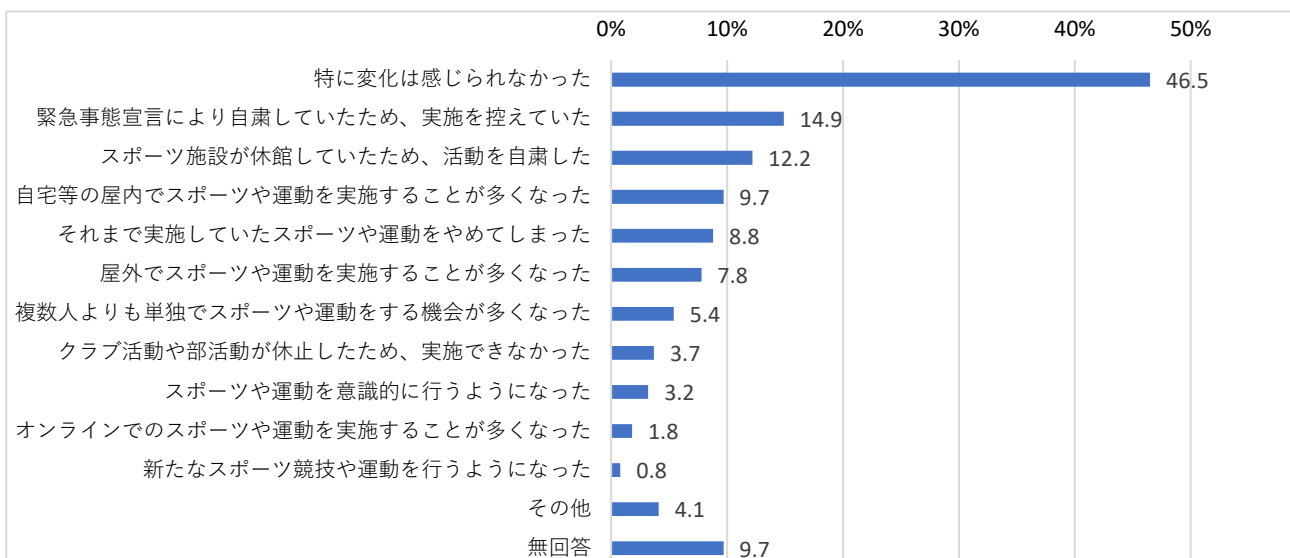
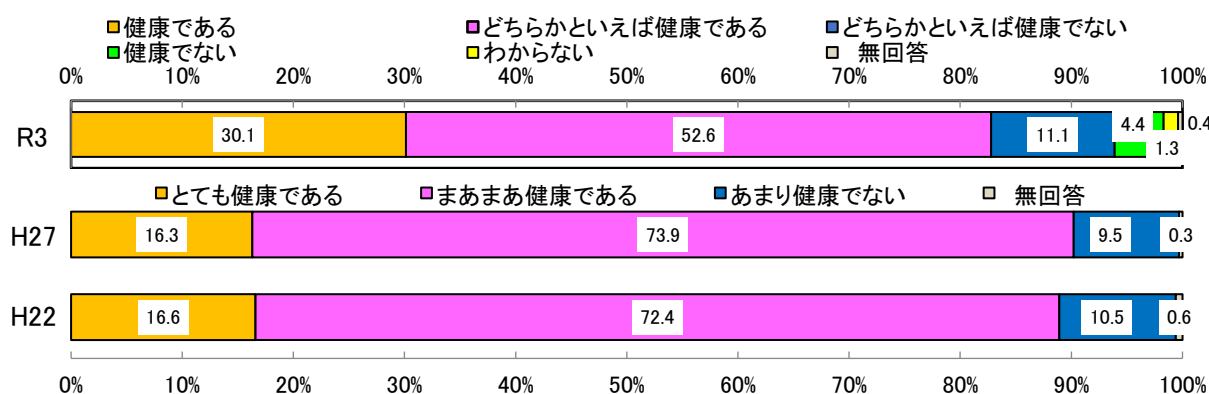


図2 スポーツを実施する環境の変化(複数回答)



②健康について

図3 自分の健康状態について



※注 H22・H27, R3 調査では選択肢が異なる。

図4 運動不足を感じるか

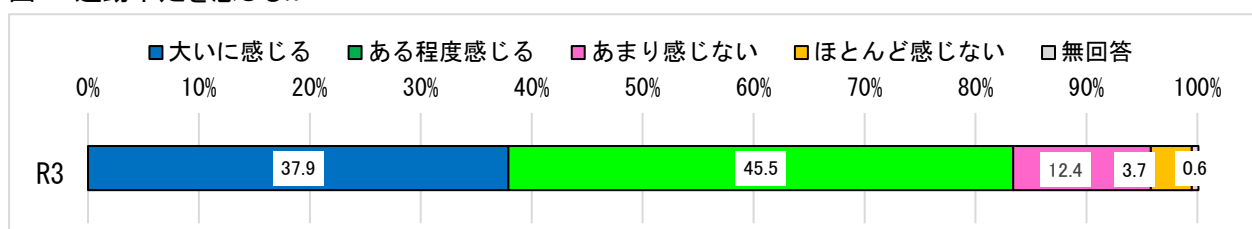


表1 健康を保つために心掛けていること (複数回答) (%)

順位	平成 22 年度		平成 27 年度		令和 3 年度	
1位	睡眠・休息を十分にとる	55.8	睡眠・休息を十分にとる	57.4	睡眠・休息を十分にとる	57.2
2位	栄養や食事に気をつける	52.3	栄養や食事に気をつける	57.2	栄養や食事に気をつける	50.3
3位	規則正しい生活をする	45.2	規則正しい生活をする	48.7	規則正しい生活をする	46.0
4位	定期的に健康診断を受ける	41.3	定期的に健康診断を受ける	46.7	定期的に健康診断を受ける	44.7
5位	運動やスポーツをする	34.0	運動やスポーツをする	32.4	運動やスポーツをする	31.9

③ 運動・スポーツについて

図5 運動・スポーツをすること

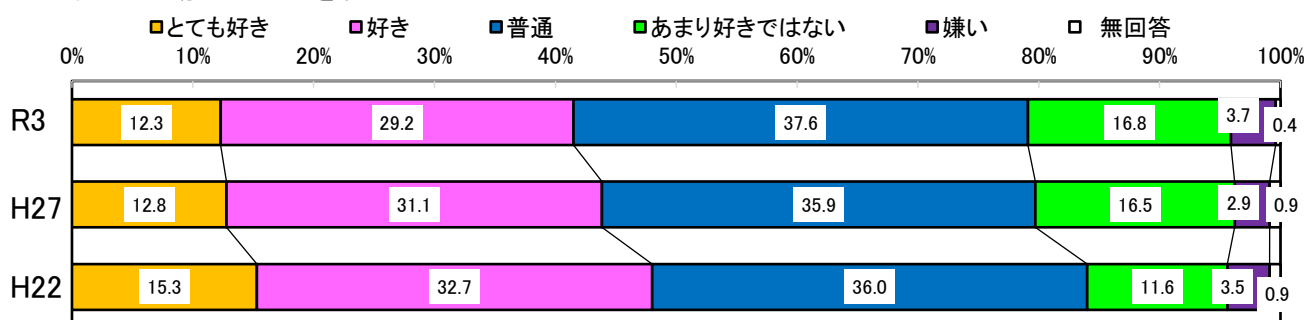


表2 今後も続けたい, これから始めてみたい運動・スポーツ (複数回答) (%)

順位	平成 22 年度		平成 27 年度		令和 3 年度	
1位	散歩	32.5	散歩	34.8	ウォーキング(散歩等含む)	65.0
2位	ウォーキング	24.4	ウォーキング	20.4	トレーニング・室内器具を使ってする運動	27.8
3位	軽い体操, ラジオ体操	16.8	水泳	18.0	体操(ラジオ体操・職場体操・美容体操等)	20.9
4位	ヨガ	16.6	軽い体操, ラジオ体操	17.3	ランニング・マラソン・駅伝	19.1
5位	水泳	14.9	ヨガ	16.2	エアロビクス・ヨガ・バレエ・ピラティス	18.1

(2)スポーツ実施率

**宮城県の目標値**（宮城県スポーツ推進計画より）

- ・ 成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（65%程度）
- ・ 成人の週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人（30%程度）
- ・ 成人の年1回以上のスポーツ実施率の増加

調査結果の概要

【スポーツの実施】

- 前回と比較すると「週3回以上」はH27年度の13.0%から14.1ポイント増加し27.1%であった。「週1回以上」はH27年度の35.0%から39.8%と4.8ポイント増加しているが、一方で「行っていない」がH27年度の35.8%から55.6%と19.8ポイント増加している。
- 運動・スポーツへの取組の二極化の幅が大きくなっている。一因として、新型コロナウイルス感染症拡大による外出の自粛等生活様式の変化より運動・スポーツの実施を控えた影響考えられる。また、運動・スポーツそのものに関心を持っていない人が増加していることも否めない。
- 実施率の向上については、自身の健康保持や楽しみ・気晴らしのために、環境・状況等の変化に応じて工夫しながら意識的に運動・スポーツ運動に取り組んだ人が増えたものと推察される。
- スポーツ実施率について、本県では国と同一の目標を設定しているが、「週1回以上」で25.2ポイント、「週3回以上」で2.9ポイント下回る結果となった。
- 全体的に女性の実施率が低い傾向が見られる。年代別に見ると、男女ともに「70歳以上」が最高値となっており、子育て世代や働く世代が運動やスポーツに親しむ機会の確保が大きな課題である。
- 「条件が整えば今後、運動やスポーツをしてみたい」という回答が、男女ともに70%を超えており、特に実施率の低い年代で「してみたい」割合が高くなっている。

図6 スポーツ実施率

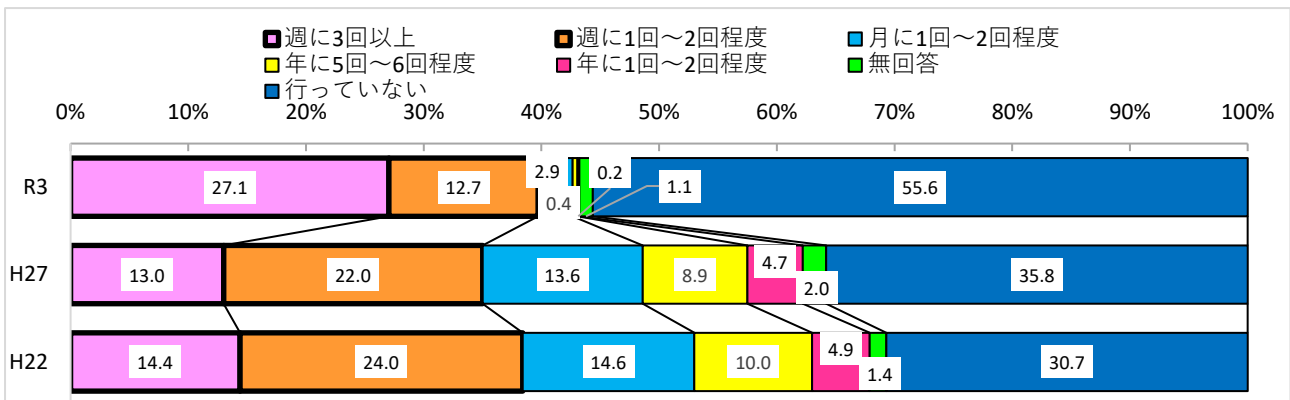


図7 スポーツ実施率（「宮城県」および「全国」の経年変化）

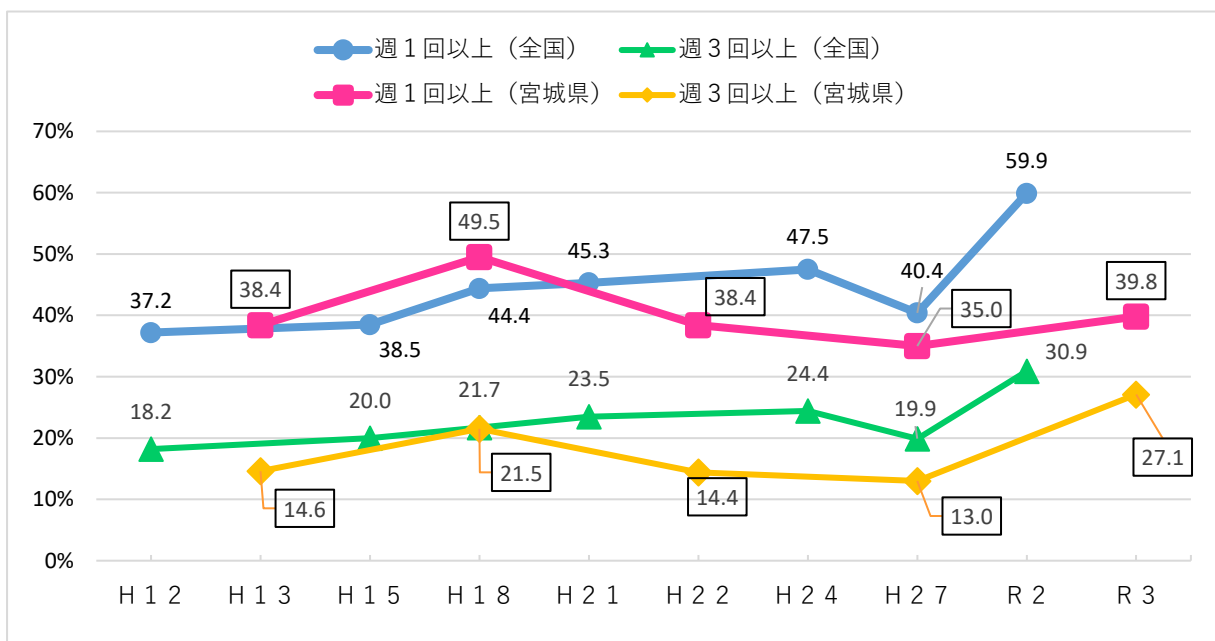


図8 スポーツ実施率【男性】

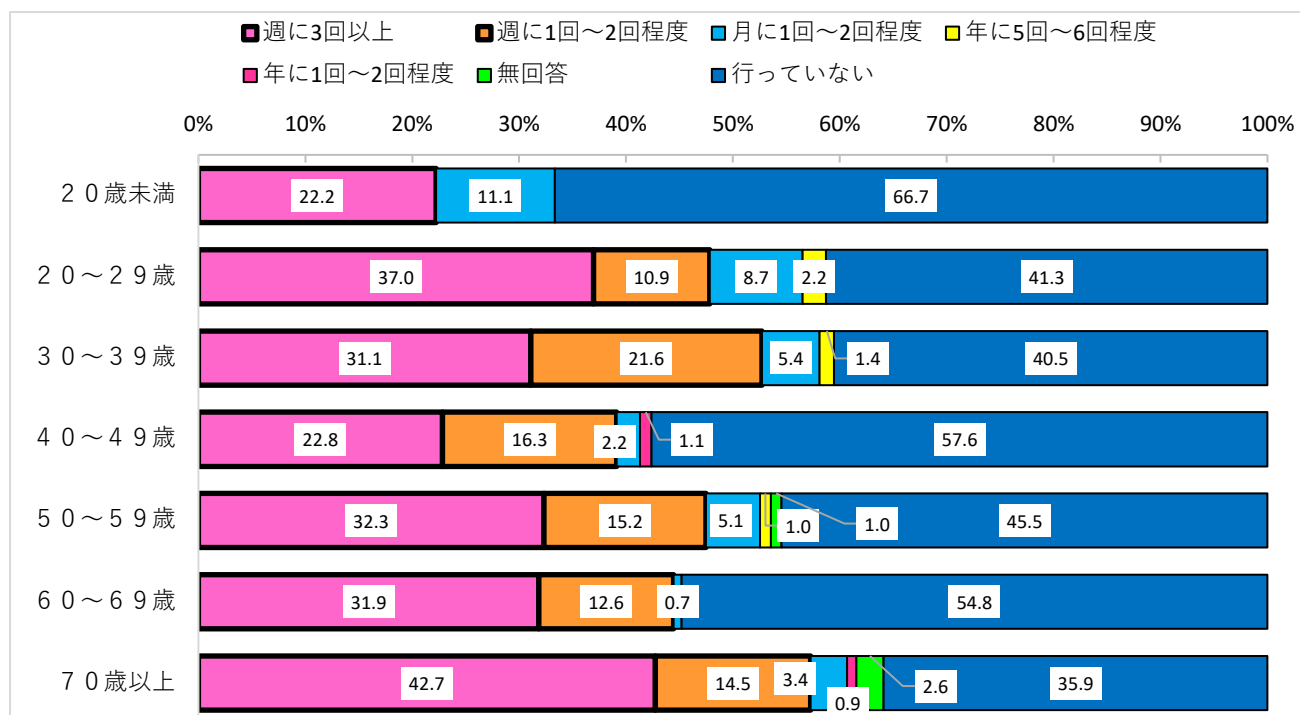


図9 スポーツ実施率【女性】

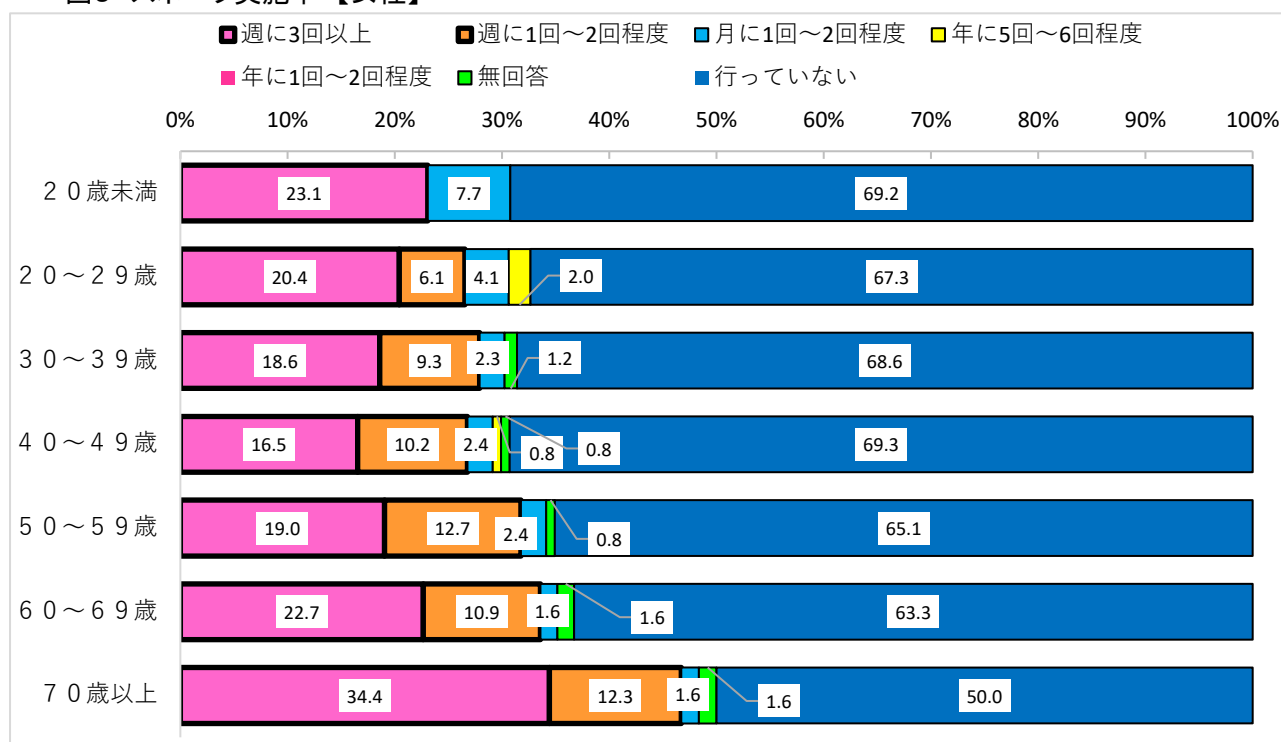


表3 この1年間に運動・スポーツを行った理由（複数回答）（%）

順位	平成22年度		平成27年度		令和3年度	
	理由	割合	理由	割合	理由	割合
1位	健康や体力づくり	50.3	健康や体力づくり	53.0	健康のため	71.8
2位	運動不足を感じて	45.1	運動不足を感じて	43.9	体力増進・維持のため	55.1
3位	楽しい、好き	44.0	楽しい、好き	43.7	楽しみ・気晴らしとして	53.1
4位	友人、仲間との交流	38.7	気晴らしやストレス解消	36.6	運動不足を感じて	44.7
5位	気晴らしやストレス解消	38.4	友人、仲間との交流	32.4	筋力増進・維持のため	43.2



図10 条件が整えば今後運動やスポーツをしてみたいか【男女別】

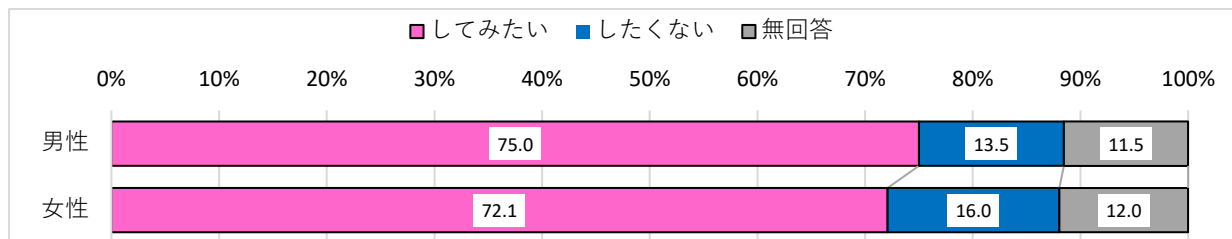
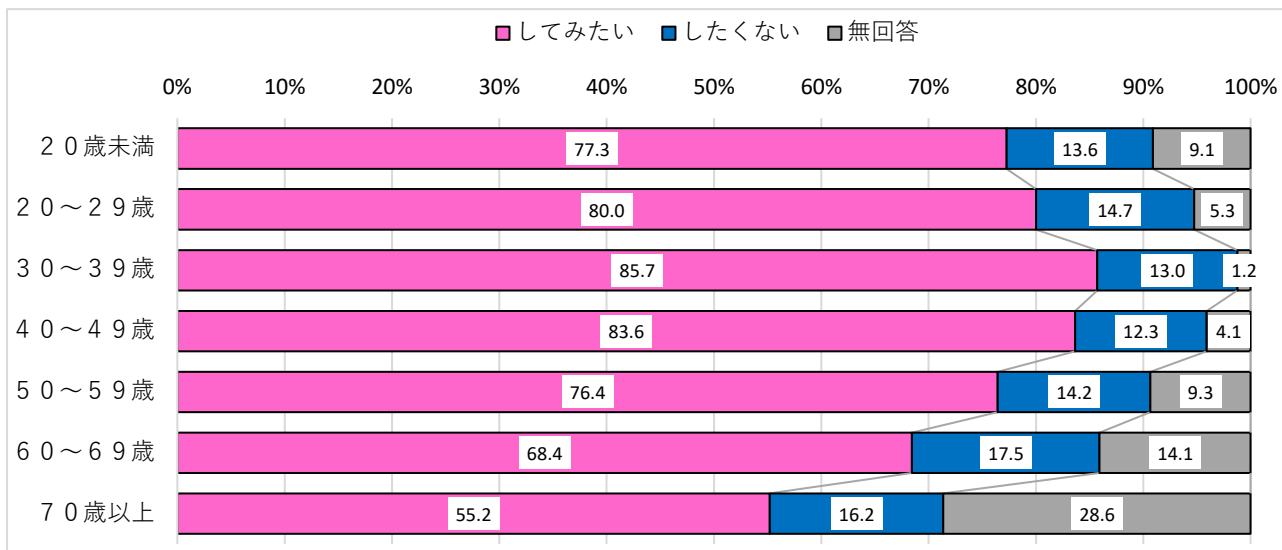


図11 条件が整えば今後運動やスポーツをしてみたいか【年齢別】



### (3)スポーツ観戦

#### 調査結果の概要

##### 【スポーツ観戦】

- スポーツ観戦に関して、85%が「とても好き」「好き」「普通」と回答し、前回と比べ微減している。また、「あまり好きではない」「嫌い」が12.8%と微増の傾向にある。
- コロナ禍において試合が無観客で開催されるなど、観戦の機会が減少したことも観戦離れに影響していると考えられる。
- 競技場で観戦した種目については、県内に拠点をもつプロスポーツの種目が上位を占めており、観戦しやすい環境が反映されているものと思われる。

図12 運動・スポーツを観ること

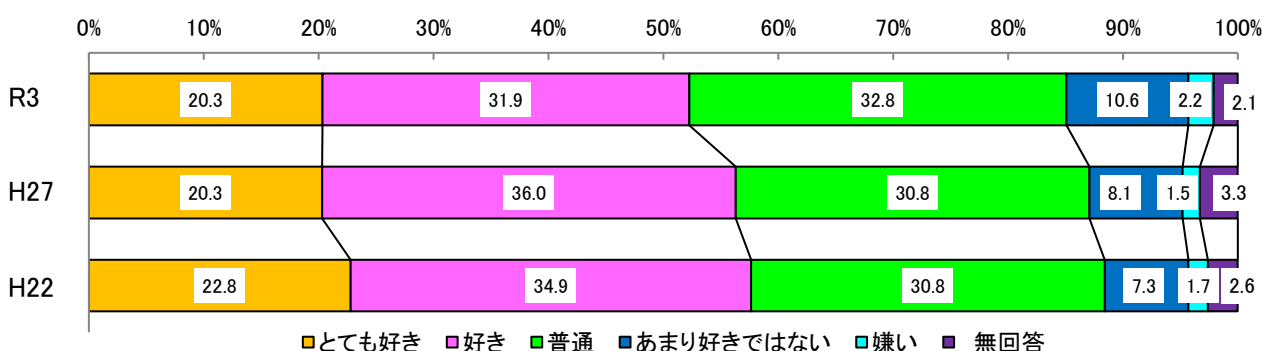


表4 競技場等で観戦したスポーツ種目 (複数回答)

(%)

順位	平成22年度	平成27年度	令和3年度
1位	野球 74.6	野球 69.5	野球 73.8
2位	サッカー 29.4	サッカー 23.4	サッカー 17.5
3位	マラソン・駅伝 20.6	バスケットボール 9.5	バスケットボール 8.6
4位	バスケットボール 9.2	バレーボール 7.9	マラソン・駅伝 7.0
5位	ゴルフ 8.5	マラソン・駅伝 6.8	ゴルフ 4.9

(4) 地域スポーツ

**宮城県が目指す目標値**（宮城県スポーツ推進計画より）

- ・ 総合型地域スポーツクラブの県内全市町村への設置

調査結果の概要

【①総合型地域スポーツクラブについて】

- 令和2年度末現在で、県内25市町に53クラブが設立されており、クラブ数は微増しているが設置率は71.4%にとどまっている。
- 認知度は微増しているものの、80%以上が「知らない」と回答していることから、登録・認証制度を活用しながら広報活動を行って行く必要がある。
- 認知度の低い要因の一つとして、クラブの活動やイベントに参加していても、その団体が「総合型地域スポーツクラブ」であると認識されていない可能性も考えられる。

【②地域のスポーツ行事について】

- 地域の自治体が主催する行事への参加率は減少が続いている。特に10～30代の不参加率が70%を超えている。
- 不参加の理由としては、「行事を知らなかった」が最多であるが、「地域との交流が希薄であるから」がこの10年で9.2ポイント増加しており、人口減少、震災、核家族化等の要因によりコミュニティが縮小されたことが考えられる。

① 総合型地域スポーツクラブについて

図13 総合型地域スポーツクラブの認知度

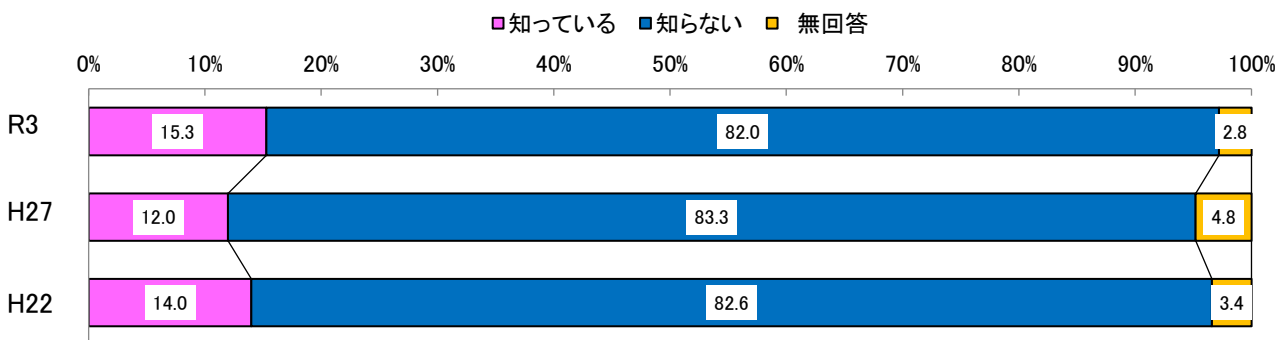
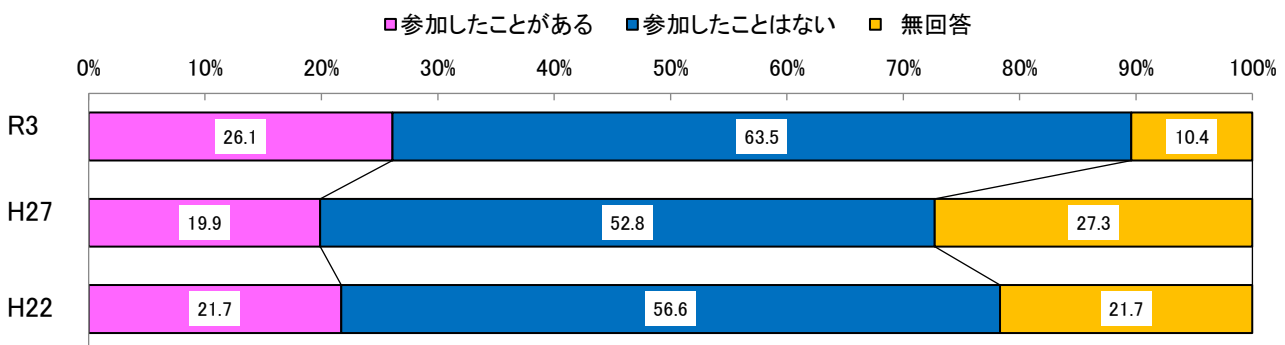
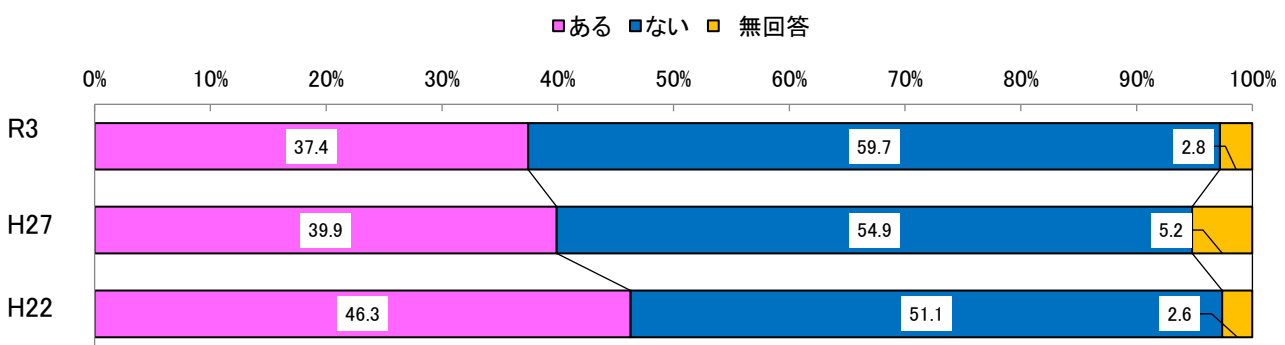


図14 総合型地域スポーツクラブを「知っていた」人の参加経験



② 地域のスポーツ行事について

図15 地域の自治体が主催するスポーツ・レクリエーション行事への参加経験



(5) その他

調査結果の概要

【①スポーツボランティアについて】

- 東京オリンピック・パラリンピックの影響で増加すると予想していたものの、「日常的・定期的に行っている」「イベント・大会で不定期に行っている」との回答が4.9%と少なく、これまでの回答と比較しても著しく減少している。
- スポーツボランティアの活動について認知されていない可能性も大きい。コロナ禍において大会等が開催されず、活動の機会がなくなったことが要因の一つとして考えられる。

【②運動・スポーツに関する情報について】

- 運動・スポーツについて知りたい情報は「スポーツ施設の有無や施設概要」「スポーツ施設の利用方法」が10年推移で変わらず高い需要となっている。
- 年齢別の入手方法は、若年層ほど「ホームページ」「SNS」を活用しており、高齢層ほど「行政が出す刊行物・パンフレット」の活用傾向が高くなっていることから、年齢層に応じたPR方法の検討が必要である。

【③障がい者スポーツについて】

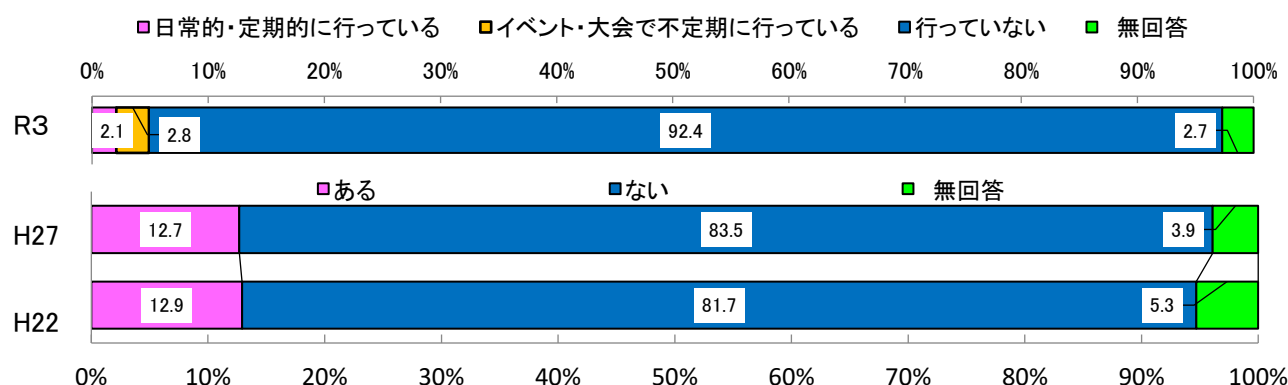
- 障がい者スポーツの種目については、全体的に認知度の向上が見られる。東京パラリンピックの影響が大きいと思われる。
- 今後の普及・推進のために特に必要なことは、「情報発信・普及啓発の拡大」が最も多く、障がい者スポーツについて「知る」ことから始める必要がある。

【④県のスポーツ振興策への希望について】

- 全体的に回答のポイント数が減少傾向であり、スポーツそのものに対する関心の低下が懸念される。

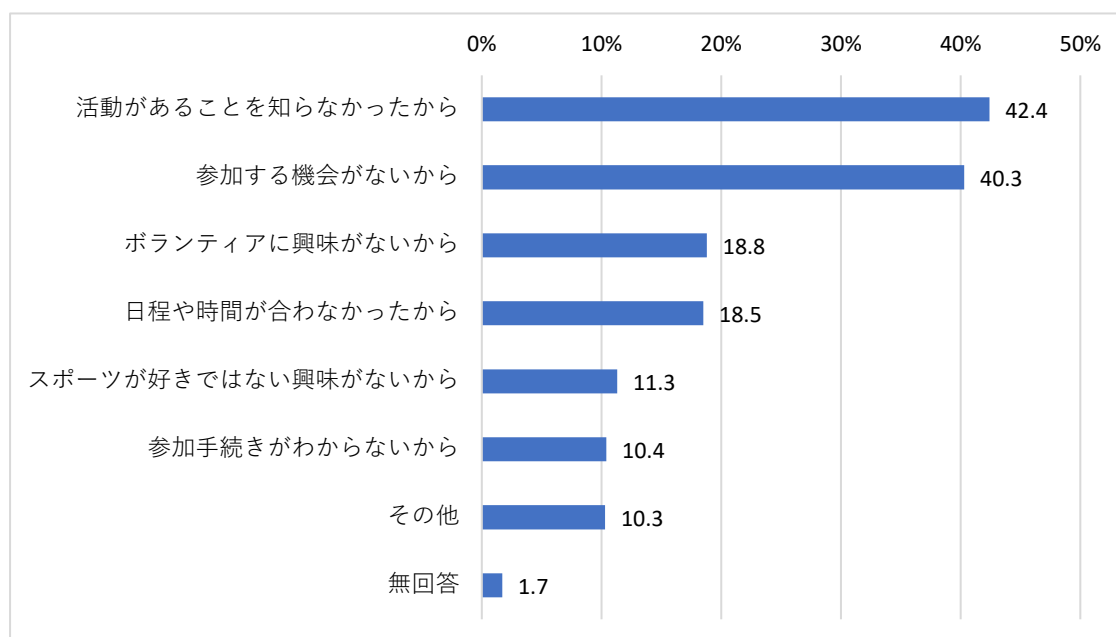
① スポーツボランティアについて

図16 スポーツボランティア活動の経験



※注 H22・H27, R3 調査では選択肢が異なる。

図17 スポーツボランティアを行わなかった理由



② 運動・スポーツに関する情報について

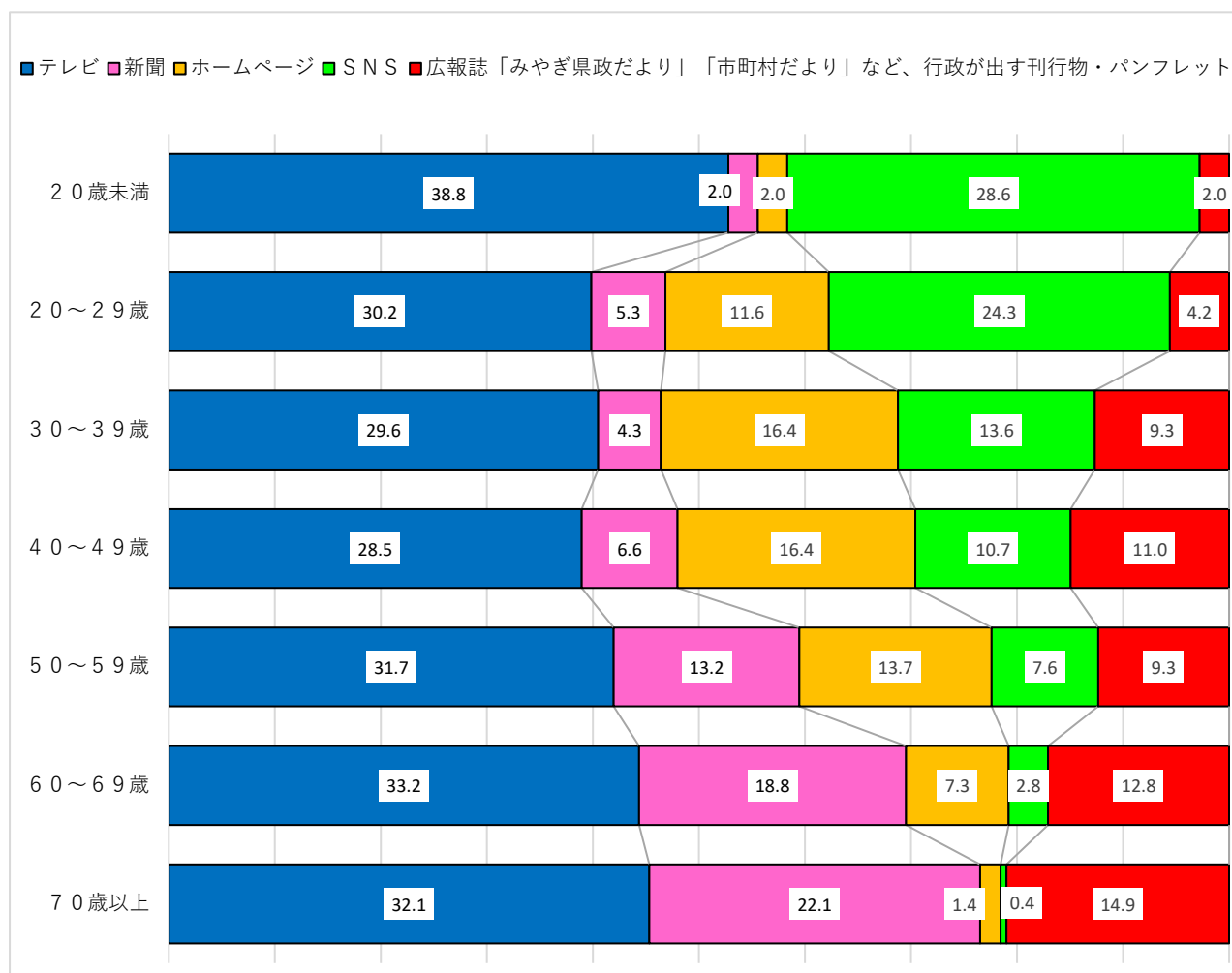
表5 運動・スポーツに関して知りたい情報（複数回答）（％）

順位	平成 22 年度		平成 27 年度		令和 3 年度	
1位	施設の有無や施設概要	44.3	施設の利用方法	43.5	施設の有無や施設概要	45.4
2位	施設の利用方法	43.8	施設の有無や施設概要	42.0	施設の利用方法	42.2
3位	大会・イベント情報	30.5	大会・イベント情報	28.4	大会・イベント情報	36.4
4位	施設の予約状況	19.9	施設の予約状況	23.7	施設の予約状況	22.9
5位	スポーツに関する団体の情報	18.1	関心がないのでわからない	16.0	スポーツに関する団体の情報	15.5

表6 現在の運動・スポーツ情報の入手方法（複数回答）（％）

順位	平成 22 年度		平成 27 年度		令和 3 年度	
1位	行政が出す刊行物・パンフレット	53.5	行政が出す刊行物・パンフレット	45.4	テレビ・ラジオ番組	73.3
2位	新聞・雑誌広告	37.2	新聞・雑誌広告	30.7	新聞・雑誌広告	37.3
3位	テレビ・ラジオ番組	32.9	テレビ・ラジオ番組	28.5	行政が出す刊行物・パンフレット	22.7
4位	知人・友人・家族からの情報	31.1	インターネット	25.9	ホームページ	21.1
5位	インターネット	20.1	知人・友人・家族からの情報	23.9	SNS	16.6

図18 現在の運動・スポーツ情報の入手方法【令和3年度上位5項目年代別】



※5位までの抽出のため、各年代の合計は100%になりません。

③ 障がい者スポーツについて

図19 障がい者スポーツとの関わり

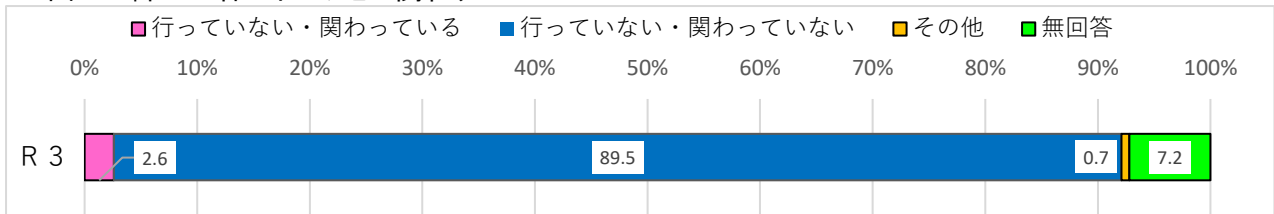


図20 関わっていない理由

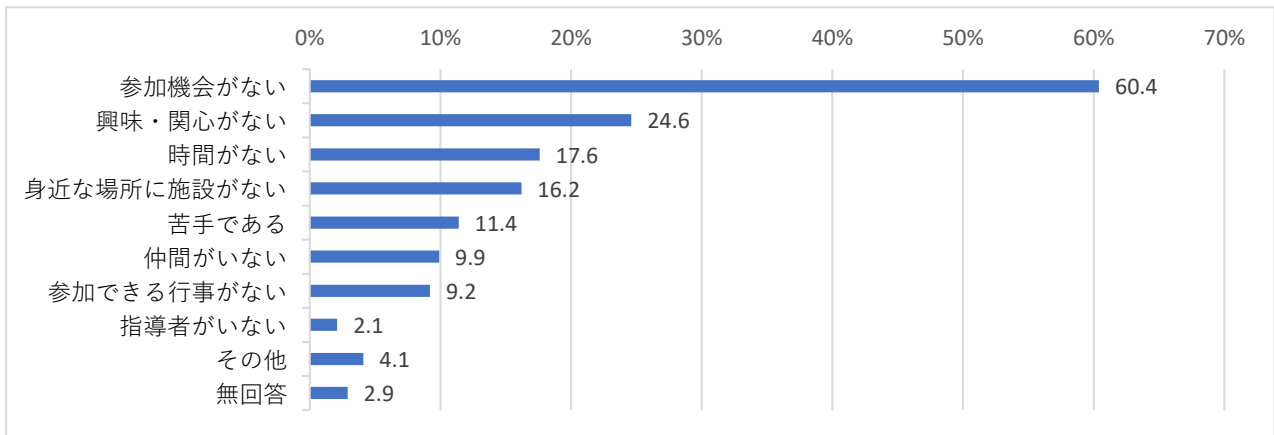


図21 知っている障がい者スポーツの種目 (複数回答)

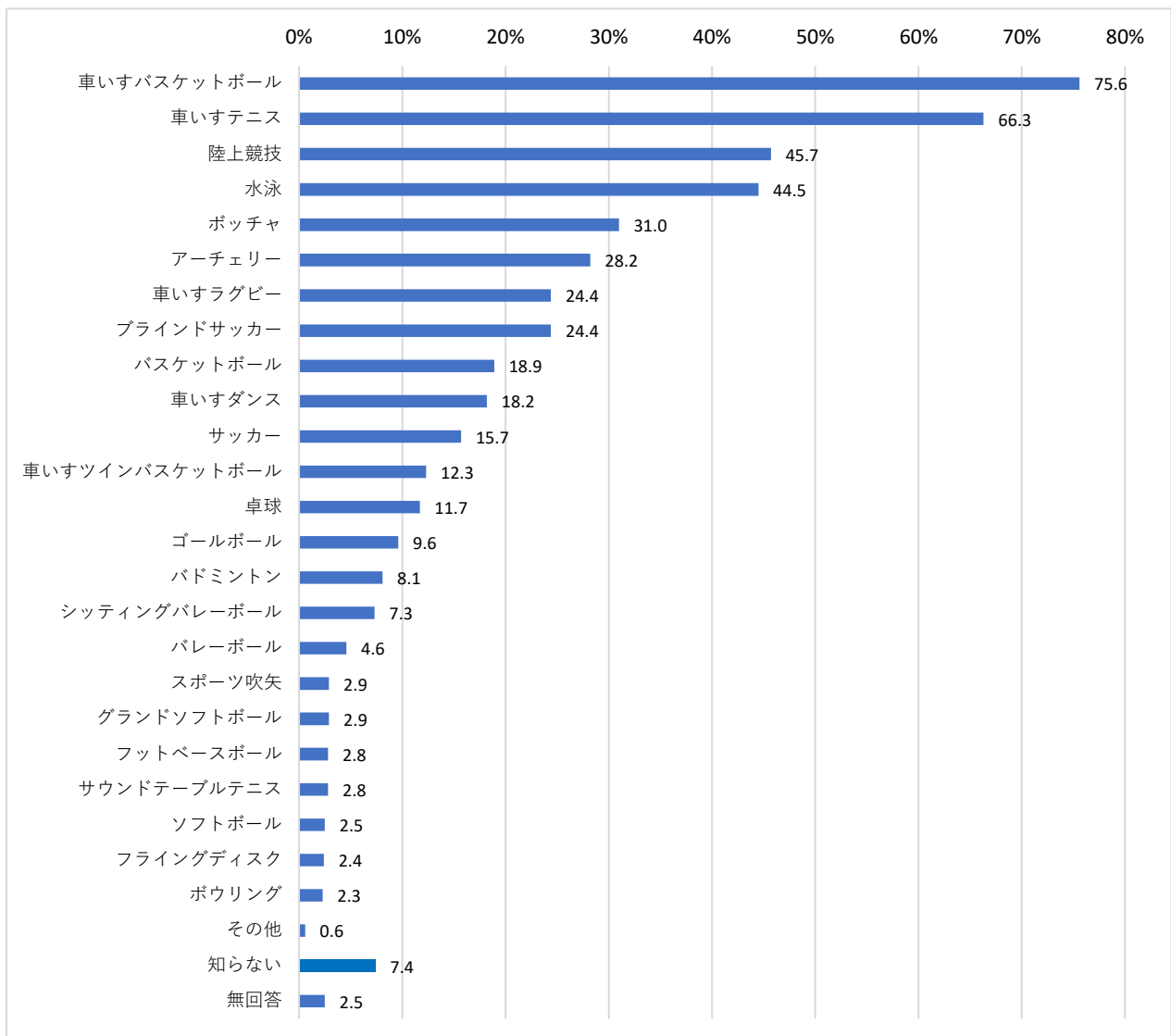
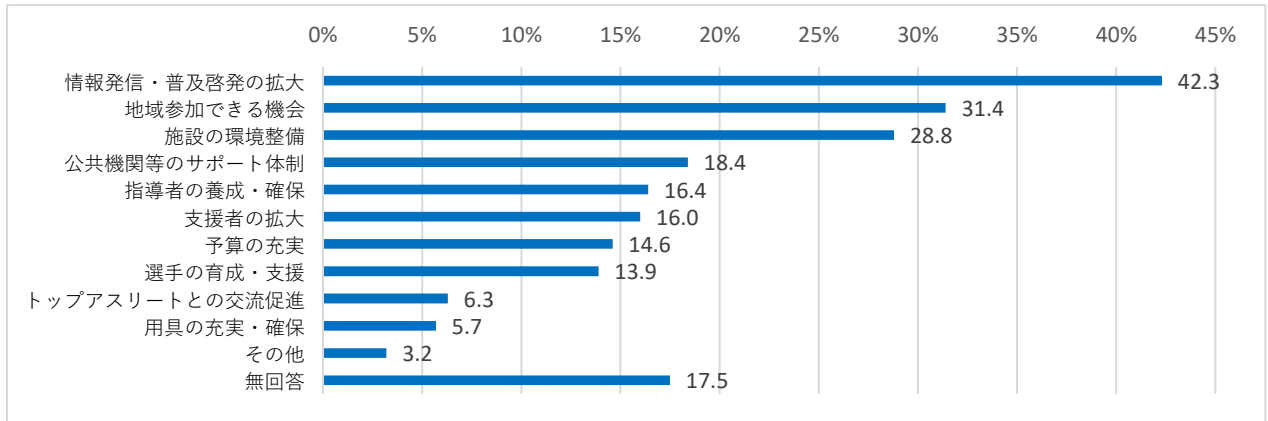


図22 障がい者スポーツ普及・推進のために必要なこと



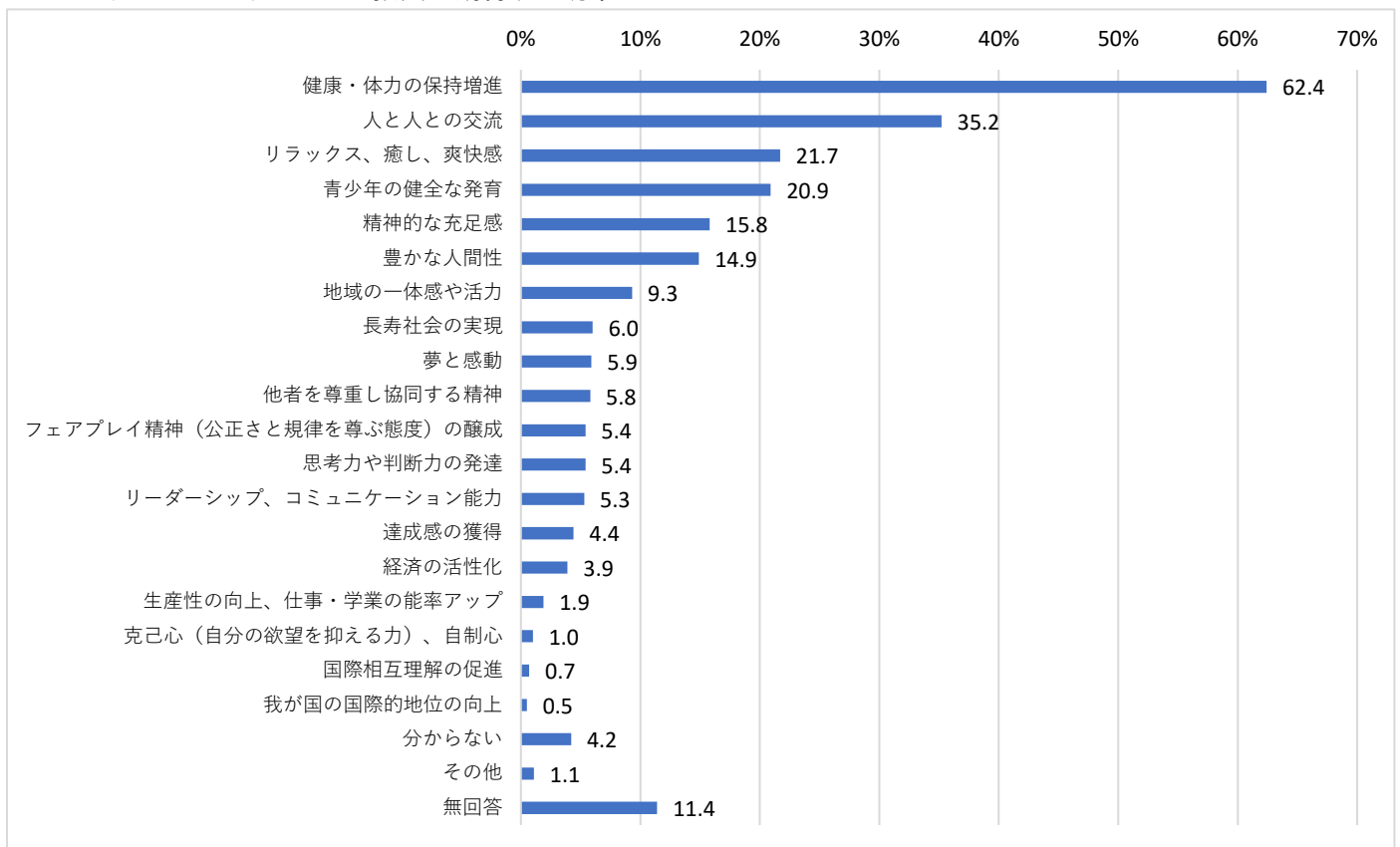
④ 県のスポーツ振興策への希望について

表7 これからの県のスポーツ振興に望むこと (複数回答)

(%)

順位	平成 22 年度		平成 27 年度		令和 3 年度	
1位	自然の中でスポーツが楽しめる環境整備	54.3	身近なスポーツの場所や施設を増やす	44.6	身近なスポーツの場所や施設を増やす	34.8
2位	身近なスポーツの場所や施設を増やす	50.2	自然の中でスポーツが楽しめる環境整備	41.3	自然の中でスポーツが楽しめる環境整備	33.1
3位	スポーツ大会や行事の開催	41.5	スポーツ大会や行事の開催	35.1	スポーツ大会や行事の開催	29.2
4位	総合型地域スポーツクラブの育成	40.6	総合型地域スポーツクラブの育成	33.8	総合型地域スポーツクラブの育成	23.0
5位	利用しやすいスポーツ施設運営	28.2	スポーツ情報の提供 スポーツ指導者の育成	22.5	スポーツ情報の提供 スポーツ指導者の育成	15.7

図23 地域スポーツ振興に期待する効果



### Ⅲ 調査結果（居住圏域別分析）

#### 調査結果の概要

##### 【スポーツ実施率について】

○ 週1回以上のスポーツ実施率は「仙台市」が最も多いが50%を下回っている。一方、運動・スポーツを行っていない割合は「登米圏」「栗原圏」が多かった。コロナ禍において、スポーツ施設が閉鎖された状況等も影響していると思われる。

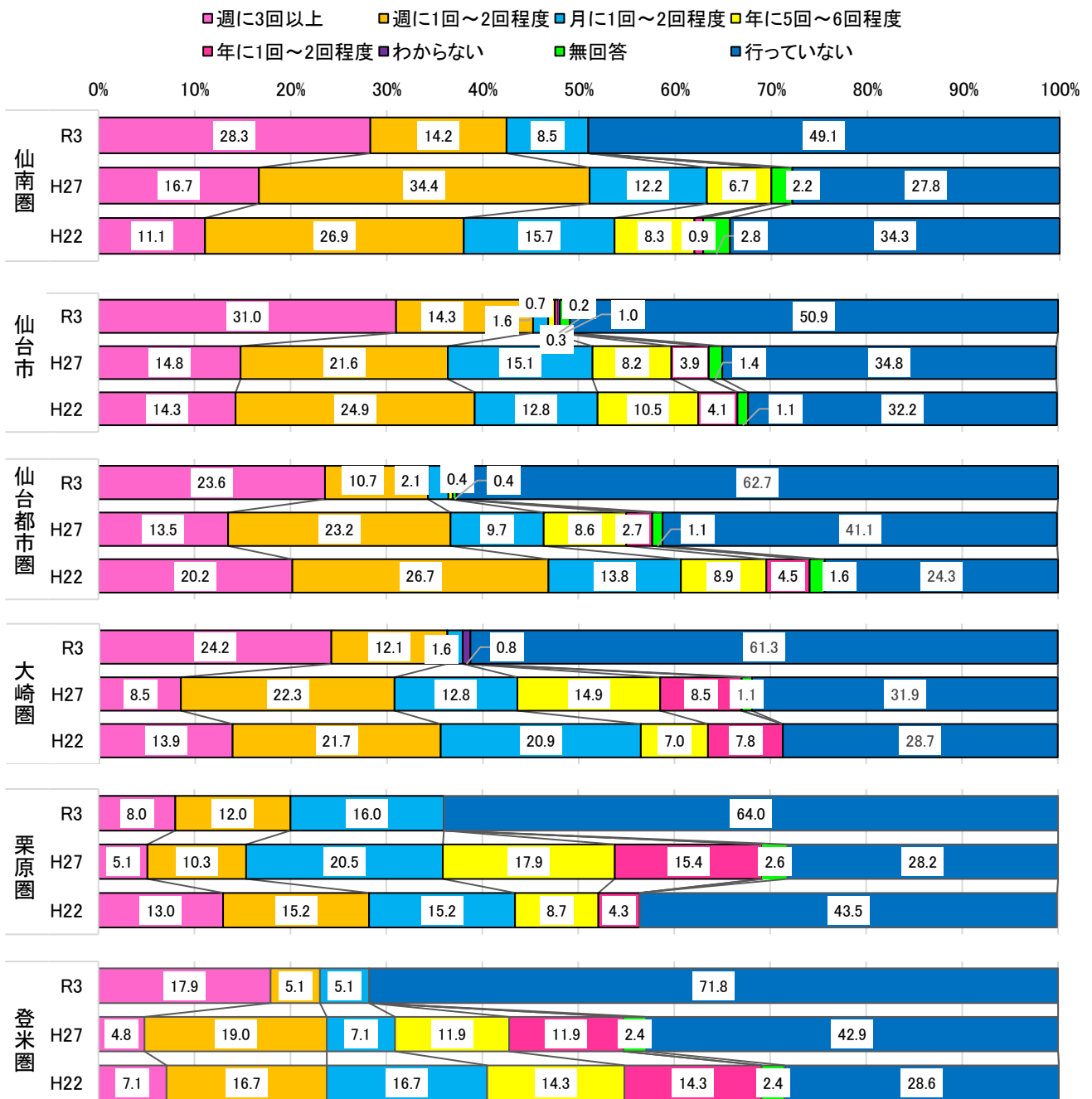
##### 【地域の自治体が主催するスポーツ・レクリエーション行事への参加経験について】

○ 「仙南圏」「大崎圏」「登米圏」では、参加経験のある割合が50%を超えており、地域のコミュニティ形成が維持されているものと推測される。  
 ○ 全体的に参加率の減少が見られるものの、「気仙沼圏」では微増しており、震災以降のコミュニティの再生が影響していると思われる。

#### ■ ま と め ■

○ スポーツと地域の関わりを見てみると、高人口圏域において地域の自治体が主催するスポーツ・レクリエーション行事への参加経験が低い傾向にあり、地域の年齢構成の変化やコミュニティの希薄化が要因として考えられる。

図24 スポーツ実施率



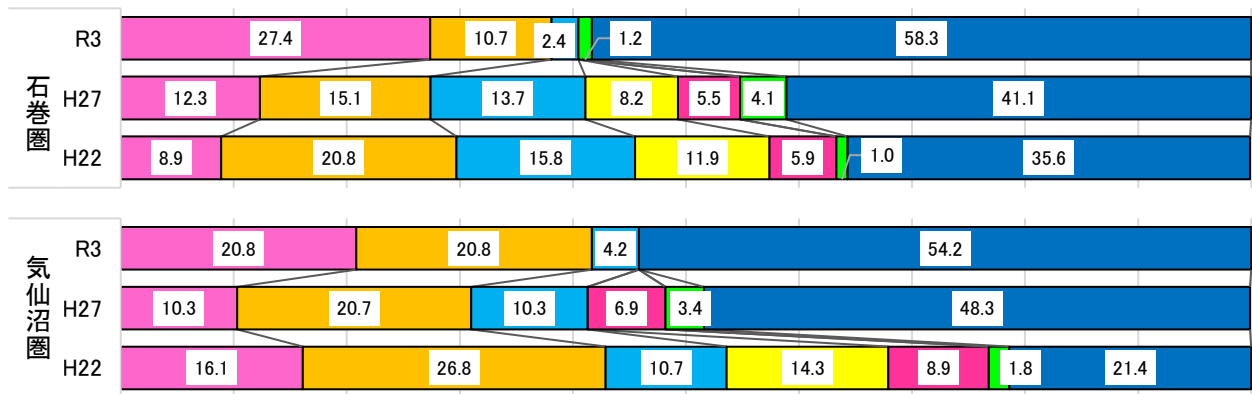


図25 地域の自治体が主催するスポーツ・レクリエーション行事への参加経験

□ある □ない □無回答

